

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ・教授
氏名 Name	高橋 美恵子
専門分野 Academic Field	社会学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	子育て世代のワーク・ファミリー・バランス
<p>本年度は、研究代表者を務める「グローバル化時代の日本男性のワーク・ファミリー・バランスに関する研究」(平成 24 年度～27 年度 基盤研究(B)) プロジェクトに従事し、国際比較の視点から、EU 諸国での就労経験をもつ日本人駐在員・元駐在員男性のワーク・ファミリー・バランスをめぐる意識や実践のあり方を主たる研究テーマとして取り組んだ。まず、欧州で就労する日本人男性(スウェーデン、ドイツ、オランダにおける日系企業へ、妻と小学生以下の子ども帯同で赴任したホワイトカラー正社員が中心)を対象として平成 25 年度に実施した調査のデータ第 1 次分析を行った。欧州での生活体験を通じて、彼らの働き方や家族との過ごし方、時間の使い方において、著しい変化が生じているという分析結果を、2014 年 7 月 16 日、XVIII International Sociological Association(ISA) World Congress of Sociology (世界社会学会議横浜大会)にて報告した(Mieko Takahashi <i>et al.</i> “Work Family Balance of Japanese Men in the Era of Globalization: Do their attitudes and practices change by working in EU countries?)。</p> <p>次に、平成 25 年度調査で得られた知見をふまえ、平成 26 年度は、欧州への赴任経験をもつ日本人男性の帰国後のワーク・ファミリー・バランスの実践に焦点を当てた調査を設計した。スウェーデン、ドイツ、オランダのいずれかの国に妻子帯同で赴任し、現地の日系企業に勤務した経験をもつ帰国後概ね 5 年以内の日本人男性 30 人を対象として、平成 26 年 6 月～平成 27 年 3 月にかけて、アンケート調査とインタビュー調査を実施した。平成 27 年度に同調査データの分析を行えるよう、準備作業に着手した。</p> <p>また日本のワーク・ファミリー・バランスの実現に向けた議論の発展を視野に入れた国際セッションの平成 27 年度開催を企画し、平成 26 年 9 月、ストックホルム大学へ赴き、現地の研究協力者と意見交換ならびに打ち合わせを行った。さらに、日本が抱える課題と政策議論の方向性を提示すべく、モデル社会としてのスウェーデンにおける働き方と家庭生活を再考し、当該分野の研究動向について整理した論文「スウェーデンにおける子育て世代のワーク・ファミリー・バランス再考—ジェンダーと国際比較の視点から」(『IDUN—北欧研究—』21 号、2015 年 3 月、pp.223-246) を執筆した。</p>	